

(様式第4号) 上田市文化芸術に関する基本構想策定委員会審議会 会議概要

1	審議会名	第3回 第二次上田市文化芸術に関する基本構想策定委員会
2	日時	平成27年10月28日(水) 午前10時00分から午前12時00分まで
3	会場	上田市教育委員会第1会議室
4	出席者	児玉会長、岩下副会長、大滝委員、宮下委員、松橋委員、間島委員、畑中委員、小宮山委員、竹花委員、小林委員、増田委員、吉田委員、津村委員、上沢委員
5	市側出席者	文化振興課長、地域文化係長、文化財保護担当係長、博物館次長、交流文化芸術センター副館長、美術館長、交流文化芸術センター・美術館職員
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者 0 人	記者 0 人
8	会議概要作成年月日	平成 27年11月5日

協議事項等

1	開 会
2	会長あいさつ
3	報告事項 (1) 配布(送付)資料の確認について ア 第2回資料5 策定委員会アンケートのまとめ(追加) イ 資料1 第2章 上田市の文化芸術活動の現状と課題 ウ 資料2 第3章 上田市文化芸術振興に関する基本構想(たたき台)
4	協議事項 (1) 現状と課題について 資料1 <文化財関連の事務局説明> (委員) 1ページの指標の基準値はどのようなものか。 (事務局) 第二次総合計画の住民アンケートによるものです。これは平成26年度に行われたものです。 (委員) 図書館にあるような資料のようなものは該当しないのか。 (事務局) そのようなものも含まれております。 (委員) ○○文庫みたいなものもそうか。 (事務局) そうです。 (委員) 文化伝統というところで、学校の中で神社やお寺の祭事、行事に参加し、学習に活かされるように御検討いただきたい。 (会長) 5ページ課題(3)「観光活用の質が求められて」とある「質」とはどのようなものかお聞きしたい。 (事務局) 今の観光活用の多くの看板では、文化遺産の価値自体を理解されるような仕組みになっているかが課題だと思っている。 (委員) 2ページ、5ページに先人偉人の関係があるが、赤松小三郎について機会を捉えて広く伝えてもらいたい。 (委員) 先ほど297件の文化財は他市に比べて多いとの説明がありましたが、私も塩田なので国宝や重文など数多くありますが、どこと比べてのことなのかお聞きしたい。 芸能の名称で4件あるが、他の区分でも良いと思われるが定義はどうなっているのか。 (事務局) 合併以前のそれぞれの旧市町村のものを合せたものです。ただし、指定の考え方は各旧市町村により異なることから今後検討してまいりたいと考えております。 (事務局) 件数については、県内では長野、松本に次いで3番目です。人口が類似の市に比べますと多いということです。 (委員) 合併した時の数ということだが、各旧市町村の指定の数についてはどうなのか。 (事務局) 何とも言えない。 (委員) 国重要美術品1点は何ですか。 (事務局) 常楽寺の「板絵着色三浦屋の絵」です。

(委員)天然記念物の中に大六のケヤキは入っていますか。

(事務局)市の指定であります。

(委員)長野県では2位、ケヤキでは1位になっている。私有地で難しい面があると思うが、800年を超えた木であるので、何とか存続してもらいたい。

(事務局)樹木医に診ていただき、薬剤注入等を行っている。

(委員)市民に関心をもっていただきたい。

(委員)関連で、上本郷の薬師堂に大きなケヤキがすごい。有名ではないが注目してもらいたい。

(会長)大六のケヤキは、県立歴史館で今回「森と木と人間の歴史」展の図録の中の写真になっている。

現状と課題はこれで良いが、運用の面で気をつけていただきたいことが、埋蔵文化財分布図のデジタル化ということで最近、発信されました。業者がこれを見て、外れていると判断されてしまうのは怖い。必ず開発事業等の場合は、文化振興課に問い合わせるようにしてもらいたい。

現状と課題は全て終わりとなります。全体を通して更にご質問はありますか。

(委員)いろいろな文化遺産があるということですが、上田市の歴史の中でここがというところはどこなのか、そこが見えてこないと上田市の文化の一番の根幹となるものはどこなのか。上田市は相当いろいろな文化面の取り組みあると思うが、一番の芯が見えてこない印象がある。どうなのか。

(会長)時代背景によって違いがあるが、それぞれの時代に輝いていたとは思いますが、全部引き継いで今日とは難しい。

(委員)そういうことを市民の間に分かりやすく伝わっていくと上田はそういう時代を経てきている中で、上田市を貫いている何かがあると思う。そういうものが見えてくると上田市の文化とはこういうものだと思ってくるのではと思います。上田市の貫くものが見えてくるといいなと思います。

(会長)行政だけが伝達するわけではなく、住んでいる人たちが周りにあるものを自分たちで大事にしたり勉強したりして大切にしていかなければいけない。

(委員)時代によって違うだろうが、我われは塩田にいたので、国宝だ、重文だとある中で、塩田中は1年生になると必ず地域巡りというもので5~6人のグループで企画して勉強している。その際の説明係としてお手伝いをしているが、生まれて育ったところの幸せというようなものを子どもたちと勉強している。

(委員)私はもともと長野市におりまして、35年前に上田に来た。なので、上田市を部外的に見られる部分があると思いますが、上田市の一番の良ところは芯ということではないが自然条件の気候、風土で、住みやすさだと思います。全国をセールスで移動した方が最終に土地を求めて住み着いたのが上田市だという事例もあります。ひとえに気候風土が良くて住みやすいだけでなく、人情の温かみがある。

(会長)もう一つ話が出たが、「市内に残る西洋建築、武家住宅、近代遺産等の調査を実施しています。」ということについて、是非今残っているものを残す努力をしてください。

(委員)私は、上田市を一番特徴づけている根本は、「蚕・シルク」だと思います。20年前に全国4会場で「シルク展」というのを開催されました。当時、日本4大産地で、国府があったので、天皇家へ献上するシルクはまず上田だったということで開催された。現在、笠原工業さんとかいろんな形で始まっていますがシルクの歴史については、もっと学校教育の中で皆さんにもっと知らせていくべきでないか。御検討いただきたい。

(委員)5ページのところに「文化財を保存し、観光や学校教育、社会教育に活用していく」とありますが、それぞれの学校でやっています。今、塩田のお話がありましたが、それぞれの学校で、地域の学習は力を入れてやっています。特に、29年度までに信州型コミュニティスクールを全校実施で、要約されていますので、それぞれの学校で地域の方と会議をもって関わってもらっている。上田市教育委員会も、指導的な立場でやっていただいている。ただ、子どものいるお宅が少なくなっているの、学校でやっていることが、お子さんを通じて伝わっていかない。ホームページ等で行事などのお知らせをするよう努めています。

(委員)その関連で、私もカルチャーでやっている講師が、ある小学校で、修学旅行前の勉強

会ということで1時間の予定で行ったが、質問責めで2時間にもなってしまった。結構、丸子の生系について、子どもも含めているところで講演されていると感じた。

もうひとつは、5ページの(2)で国の有形文化財のところでもカルチャーをした。20人くらいでしたが、初めてという人が15人いた。こういうものを上手く利用して知らせていくことが必要だ。

(会長)シルクの話がでたが、今、皇室で皇后様がお飼いにしているお蚕さんが「小石丸」というお蚕さんです。開発したのは金剛寺の方でないですか。

(委員)伊勢山です。

(会長)その借りてきた標本資料が博物館にある。大事部分だけ、小石丸の開発と販売に関わることについては、写真、データ資料だけとって博物館で収集するとか、できれば学校で飼うことがあれば、是非、小石丸を飼っていただきたい。

(委員)結局、皆さんのお話や課題を見て、これまで上田でやらせてもらっている中で、一本貫く物語が全然感じられない。もう少し抽象的な言い方をすると、歴史とか遺産を前面にだして都市づくりをしているまちは、一本貫く物語をもっている。それをきちんとできれば、課題がある程度理解されてくる。

(会長)前回と今回の全体の現状と課題で、今一番大きな話で、上田の貫く物語、構想をもてとの話がありました。そのほか、何かありませんか。

(委員)今の物語ではないが、どうして皆さん話の中に真田が出てこなかったか。上田に城下町をつくったこと、現在上田のまちがあるということは真田氏が山から下りてきて城下町をつくったこと。その時代は戦国時代末期の頃、北条や上杉や徳川に利用されず、その中で真田が頑張ったということは確かにある。現在、上田がここにあるということは、城下町があって、お城があってその周りがある。合併はしたが、上田を考えるのに真田が必然ではないか。

(会長)まちと地域を結ぶ骨格は確かに城下町を中心に原形はできた。そこについた肉だとかは、地域で。地域のことはもっと勉強して発表しなくてはいけない。上田の町民文化みたいなものが、ようやく女性の皆さんが図書館中心に、年に1回発表してもらっているの、段々分かってくる。まだ、十分ではない。行政でやれということではなく、市民が図書館、博物館そういうものを利用して自分たちで発掘していかなければいけない。

(委員)いきなり城下町ができたのではなく、その前の歴史があり生まれたと思うので。そこをどうするか。

(2) 基本的施策について 資料2

< 1 事務局説明 >

(事務局)3ページ(4)の歴史文化基本構想が、先程、委員が言われた一本を貫く物語、ストーリー立てが、これにあたると思われます。

(委員)伝統芸能のところで、継承と保存を図るというものがありました。その中で、協働発表の場についてあったが、具体的にはどのようなものか。

(事務局)今、市で指定して補助金を出している団体は16団体あります。本来はその地域のお祭り等で、そこで観るべきものですが、先程意見がでたとおり発表の機会がないので、後継者が育たない。一同にたくさんの人たちが見学できる場という意味で、施策を立てた。

(委員)かつてはあったが、今は無い。

(委員)かつてはどんな形だったのか。

(事務局)上田文化会館で集まっていたが、発表した。海野町の日曜広場でもやった。

(委員)今の海野町の件で、20年位前になりますが、やらせてもらいました。海野町を歩行者天国にして、いろんなものをやったが、あんなものが良いと思う。やる場所は、本来、神社等と思いますが、見てもらい、知っていただくことも必要です。

(委員)資料のことですが、寄託することを考えていたお宅が博物館の収蔵庫を見て、ここには寄託するわけにはいかないとされた。絶対上田に置かなければいけないものもある。立派な収蔵庫であれば、もっと寄託や寄附をしてくださるのでないかと思う。

(委員)共通理解として一本を貫くものが延々とあれば、そういうものが見えてくる。自分として、国分寺がここにあったということは凄く大きなことだと思っており、どうして上田にあ

ったのかは、キーポイントだと思っている。上田市も国分寺があったということのブランド力があって、背景を知っているとブランド力が上がるのではないか。上田の良さを全面的に発信してもらいたい。自分もそういう立場で発信していきたい。

(委員) 公文書館のどのくらいの規模が分からないが、先人偉人の顕彰とういうかその人と関連の資料があるのかどうか。何らかの形で繋がるのであれば、別々につくると逆に繋がりがどうなのか。一緒につくことで検討できないか。

(事務局) 既存の施設での設置で検討している。物理的に、全ての保存は難しい。分館で考えている状況です。

< 2 事務局説明 >

(委員) 質問の前に確認ですが、6・7ページのサントミュージゼだけで、丸子文化会館とか入っていないのか

(事務局) サントミュージゼを核としたということなので、他も包括しております。

(委員) 前回の計画の時に、項目として市民が自発的に、主体的に施設を活用できる環境づくりとありまして、一般の文化団体、例えば、踊り・合唱・演劇・美術などありますが、市がやっている人たちがやりやすい環境をつくる必要で、市民文化の歴史に繋がっていく。サントミュージゼのことを言っているわけではないが、利用する時に、地域の住民の方のハードルを下げて利用させてもらいたい。こうしてもらわなければといったようないろいろな条件でなく、地域の文化を育てるような施設を考えてもらいたい。7ページの(2)のポツの3つ目に施設の活用というような言葉を入れていただければ有難い。

(事務局) 文化会館、信州国際音楽村と考え方は全く一緒でして、市民の皆さんに寄り添って、市民の利用しやすい施設を目指しておりますので、施設の活用についても市民目線で対応できるようにしていきたい。そうは言いますけど、市民以外のいろいろな鑑賞事業を実施しておりますので、できるだけ平準化した対応をとらざるを得ないところもありますが、ハードルを下げてとご意見もありましたので、もっと市民目線に合わせてご利用できるように努めていきたいので、文章の中で読み取れるように工夫してみたいと思います。

(委員) 同じホールにみえるが、設備が新しくなっていくと危険度がすごく上げる、30年度にできたものもある種の危険度もありますが、新しくできたものは、設備も進化されてきておりますので、同じ使い方ができなくなってきた。そこらについて、市民の皆さんが使う時に、前と違うこととなってしまうところがあります。その辺のところを誤解されないような文章でと思っています。もちろん市民の皆さんにここまでの力量がないと使えませんということではありません。逆に、市民の皆さんに劇場の使い方を一緒に勉強してみませんかという形でやっていかないと、ますます技術が進んでしまうので、僕らは止められないので、どんどん複雑になっていく。御理解いただきながら文章を作らせていただきます。

(委員) たぶん、1年に1回、2年に1回、3年に1回しか使わない市民の方がおられるかと思えますので、なるべく期待に沿うようお願いしたい。

(会長) 今のお話は運用面でいろいろとご努力お願いしたい。

(委員) 価値観をこれからの生き方、東日本大震災の後、日本がどの方向に向かっていくのか、私自身考えさせられたが、人口減少もありますし、これからどういうことを私たちとして価値観に多様化の中で自然との共存、思いやり価値観として人間の成就していくものを検討する場所、地域を創造できる場所として、サントミュージゼの施設が行政の拠点となるのではと思います。

(会長) よろしいでしょうか。今いただいたご意見を含めてお考えいただきたい。

(事務局) 今いただいたご意見を踏まえて新たに作成しますので、あらかじめ資料を郵送します。次回は、基本構想の趣旨等を記載した第1章、2章、3章の作ったものをお届けしますので、次回の会議にお願いします。

(委員) もう1点お伺いしますが、6ページの(1)の「幼・保育園・学校などと連携し、子供アトリエやお絵かき広場を中心に・・・」と書かれていますが、どうしても分からない。幼稚園や保育園でやっている上をいく発想、企画なのか。

(事務局) 上とか下とかの問題でなく、日常的にアート活動を保育園や幼稚園で行われています

けれど、全てのところでノウハウが十分普及されているわけではないとお話を先生方から聞いております。うちの学芸員が長けているというものではありませんが、有識者の方々や経験者の方々、先進美術館で研修を受けてきた学芸員と一緒にどうやれば子どもたちのやわらかい感性を、アートを通じて、いろいろなことができるか、育てることができるかという視点で活動しております。同じものを繰り返すだとか、上から目線で行うものではありません。一緒に勉強していきましょうとの趣旨でございます。

5 その他

(事務局) 前回第1回目の会議録はよろしかったでしょうか。第2回目の会議内容がよろしいか、ご確認ください。

(会長) 何かあったら事務局へお願いします。

6 事務連絡

第4回策定委員会の日程について

日時平成27年12月3日(木)午前9時30分～

場所第1会議室(この場所で)

7 閉会